

千葉県の淡水魚を勉強してみよう！（その2） （川底の魚たち編）

調査団ではまだまだ報告件数が少ない淡水魚。今回は博物館の企画展に合わせて、河川や池沼の「底」に生息する魚たちを紹介します。一見地味なようですが、よく見るととても愛らしい魚たちばかりです。県内の淡水魚には不明な点が多いため、みなさんからの情報をお待ちしています。淡水魚の発見報告を送っていただくときには、全身が入るように横から写真を撮影してください。種名の右の「国」は環境省、「県」は千葉県のレッドデータブックのランクです。（生物多様性センター 鈴木規慈）



ホトケドジョウ 国：IB 県：C

タニノボリ科ホトケドジョウ属の日本固有種。宮城県から三重県の太平洋側、秋田県から兵庫県の日本海側に分布し、地域ごとに遺伝的な分化が認められる。県内では比較的広域に分布するものの、開発や水質汚染等の影響を受けやすい、絶滅危惧種。



ヒガシマドジョウ 県：C

ドジョウ科シマドジョウ属に属する、東日本地域の固有種。東北から関東地方に分布する。近年、西日本の近縁亜種のニシマドジョウとともにシマドジョウから派生した新亜種。県内では河川の中上流域に分布するとされるが、詳細な知見はない。水質の悪化には強くない。



カラドジョウ 外来種

アムール川からベトナム北部、朝鮮半島まで広く分布。国内には食用として持ち込まれた可能性があるが、詳細は不明。在来種のドジョウとは染色体数が異なるため交雑はしないが、競合関係があるため分布を抑制する必要がある。ドジョウよりもヒゲが長く、丸みを帯びている。



ヌマチチブ 県：D

ハゼ科チチブ属に属する広域分布種。近縁種のチチブと比較して、頭部の白点はまばらであるが、多くは異所的に分布する。県内では、印旛沼や手賀沼の周辺域でも確認されている。肉食性が強い。



ウキゴリ

ハゼ科ウキゴリ属の広域分布種。北海道から屋久島までの、汽水から淡水の広域に生息する。千葉県には、近縁種のスミウキゴリも分布するが、県内の分布域の詳細は不明。



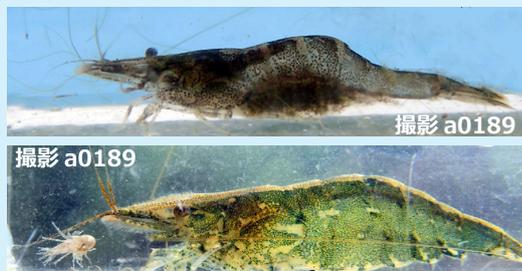
ツチフキ 外来種

コイ科カマツカ亜科に属する底生魚。国内では濃尾平野以西、中国から朝鮮半島にも分布する広域分布種。県内には琵琶湖産のアユの放流によって持ち込まれたとされているが、詳細は不明。



ギバチ 国：II 県：B

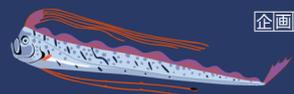
東日本地域に分布するギギ科に属するナマズの仲間。県内では清流から農業水路まで、様々な環境に生息しているようだが詳細な知見はない。胸ビレと背ビレに毒があるので、つかむ際は注意。



淡水エビの絶滅危惧種と外来種

千葉県で見られるエビの仲間にも絶滅危惧種（写真上 ヌカエビ 県：C）と外来種（写真下 シナヌマエビ）がいます。シナヌマエビは、近年、印旛沼や手賀沼の周辺域で、急激に増加しているようです。エビの情報もお待ちしています。

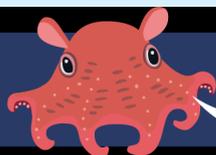
個人で飼育していた個体は、野外に放さないでください。病気を媒介したり、遺伝子汚染の原因となり、地域個体群を絶滅させてしまう危険性があります。



企画展

驚異の深海生物

— 新たな深世界へ —



千葉県立中央博物館にて

7月9日土 - 9月19日祝

平成 28 年度 第 1 回現地研修会 犬吠埼・君ヶ浜の生きものを観察しよう！ を開催しました

平成 28 年 5 月 7 日 (土)



ミミズハゼの仲間

直前の天気予報にずいぶん心配させられましたが、なんとか降られずに、春の現地研修会を銚子市の犬吠埼・君ヶ浜で開催することができました。かつてない 83 名（団員 71 名、自然保護課・生物多様性センター 12 名）という大人数でしたので、全員一緒に動くのは難しく、やむをえず 3 班に分かれていただきました。

1 班（親子連れ中心）は午前中は磯の生きもの観察、2 班と 3 班は交代で崖の地層や海辺の地形の観察と、海岸植物の観察をしました。灯台のすぐ北側の崖の上で昼食を取った後、午後は 1 班が地学と植物の観察、2 班、3 班が磯の生きもの観察をしました。

潮がいちばんひいたのが午前 10 時半でしたので午前中が磯遊びには最適で、大量のヒトデやカニ、ヤドカリ、マダコもたくさん採集できました。鳥はあまり多くは見られませんでした。植物はハマエンドウやハマボッスなど典型的な海岸植物に加え、千葉県でしか見られないボウシュウタンポポ等も見ることができました。



ボウシュウタンポポ

カントウタンポポに似るが全体にやや小型で葉色が濃く、海岸に生える。

平成 28 年度 第 2 回現地研修会は 平成 28 年 9 月 24 日 (土)

を予定しています。詳しくは次号の通信をご覧ください。

千葉県内でこれまでにみつかった特定外来生物

アカゲザル、アライグマ、キョン、マスカラット、カオジロガビチョウ、カオグロガビチョウ、ガビチョウ、ソウシチョウ、カナダガン、カミツキガメ、ウシガエル、オオクチバス、カダヤシ、コクチバス、ストライプトバス、チャンネルキャットフィッシュ、ブルーギル、ウチダザリガニ、セアカゴケグモ、セイヨウオオマルハナバチ、カワヒバリガイ、アメリカオオアカウキクサ、アレチウリ、オオカワヂシャ、オオキンケイギク、オオハンゴンソウ、オオフサモ、ナガエツルノゲイトウ、ナルトサワギク、ボタンウキクサ、ミズヒマワリ

これらを飼育・栽培・運搬・保管・輸入・販売・野外に放す等することは、禁止されています。

〈これからの季節に観察できる生きもの〉

- 調査対象種：セミの仲間、ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、サワガニ、ヤマユリ、オオフサモ（外）など
- 調査対象種以外（種の同定が難しいため、できるだけ写真の添付をお願いします）
- * 渡りのシギ・チドリ類、サシバなどの猛禽類 * 各種昆虫（とくにトンボ・チョウ）、両生類、爬虫類など
- * 希少生物（生息・生育数が減少している生物）や、外来生物の報告も受け付けています。

メールアドレスなど、団員登録情報に変更がありましたら、事務局までお知らせください